

銀七四枚、料銀廿四兩、信濃布四尺、炭五斗、和炭一石、單功八人、賀茂初齋院并野宮裝束

銀七二柄、料銀小十八兩、和炭二斗、油一合、長功四人、中功六人、短功八人、白銅七八柄、料白銅大九十六兩、鐵一延半、細布五尺、信濃布七尺、油四合、炭八斗、長功六十四人、中功七十二人、短功八十人

〔厨事類記〕銀器略○中

匙 記云、長八寸、或說大一、支弘二寸六分、柄長七寸五分、小一支、弘一寸五分、長二寸、或說長八寸四分、略○中

朝餉銀器略○中

匙 記云、大二寸七分、柄長□□少二寸三分、柄長□□或記長八寸、大少同前

〔空穂物語あて宮〕治部卿のぬし略○中

ふりをまゝへぎまにし、うへのはかまをかへぎまにき、かたしにあしふたつをさしいれて、夏のうちへのきぬに、冬の下がさねをき、ひきおひていゝがひをさくにとり、略○下

〔伊勢物語上〕

今はうちとけて、髪をかしらにまきあげて、おもながやかなる女の、手づからいひがひとりて、けこのうつはものにもりけるを見て、心うがりて、いかずなりにけり

〔今昔物語二十八〕三條中納言食水飯語第廿三

今昔三條ノ中納言朝成藤原ト云ケル人有ケリ、略○中 中納言侍ヲ召セバ、侍一人出來タリ、中納言例食フ様ニシテ、水飯持來ト宣ヘバ侍立ヌ、略○中 一人大キナル銀ノ提ニ大キナル銀ノ匙ヲ立テ重氣ニ持テ前ニ居タリ、然レバ中納言鏡ヲ取テ侍ニ給テ、此レニ盛レト宣ヘバ、侍匙ニ飯ヲ救ツ、高ヤカニ盛上テ、高ニ水ヲ少シ入レテ奉タレバ、略○下